

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の事例

③ 坂下南小学校の実践



1 坂下南小学校の教育目標

「学びあう」「競いあう」「認めあう」未来を切り拓くばんげっ子の育成

- よく考え、進んで学習する子ども
- 感動する心を持ち、思いやりのある子ども
- 明るく、健康でたくましい子ども

2 人権教育に関する目標

人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる。

人権教育具体的目標（重点）

- すべての教育活動を通して、人権を尊重する教育の推進を図る。
- 教師と児童、児童と児童が、互いの人権を認め合うことができる人権意識・人権感覚の育成の推進を図る。

| 学 年 別 人 権 教 育 目 標 | | |
|--|---|--|
| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 望ましい生活習慣を身につける。 ○ 信頼できる友だちを持ち、励ましあい、高めあう。 ○ 日常生活の中で、人権尊重の意義を感じとれるような感性を磨く。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を持つ。 ○ 身近にいる人に対して思いやりの心や感謝の気持ちを培う。 ○ かけがえのない自他の生命を尊重する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 個性を伸ばして充実した生き方を追及する。 ○ 自他を認め合い協力してあって、集団生活の向上に寄与する態度を育てる。 ○ 人間として生きることの喜びを見いだすよう努める。 |

3 坂下南小学校の取り組み

(1) 実践計画

| 月 日 | 内 容 | 備 考 |
|-----------|----------------------------|-------|
| 5月11日（金） | 小学校運動会の招待状を年長児に渡す。 | 1年生担当 |
| 5月19日（土） | 年長児が小学校の運動会に参加する。 | |
| 6月22日（金） | 4年2組算数科研究授業（要請訪問） | |
| 7月12日（木） | 5年生と年長児が水泳で交流する。 | 5年生担当 |
| 10月13日（土） | 1年生が幼稚園の運動会に参加する。 | |
| 10月25日（木） | 園児が小学校の発表会予行を見学する。 | |
| 11月 9日（金） | 「秋のおもちゃまつり」に年長児を招待する。 | 1年生活科 |
| 11月16日（金） | 2年1組算数科研究授業（要請訪問） | |
| 11月22日（木） | 「動くおもちゃまつり」に年長児を招待する。 | 2年生活科 |
| 11月30日（金） | 人権研究発表会（5年2組算数科、6年2組道徳科授業） | |
| 1月21日（月） | 幼稚園生と一緒に縄跳び等の運動遊びをする。 | 6年体育科 |
| 2月19日（火） | 幼稚園生の体験入学。学校見学や1年生との交流 | 1年生活科 |

(2) 人権教育を意識した授業の実践

| | |
|--------|---|
| 実践事例 1 | 通分の仕方についての学習活動の中で、5Kを意識させ、全員が活躍したり課題や学習の成果を共感・共有したりすることができる授業 |
| 第5学年 | |

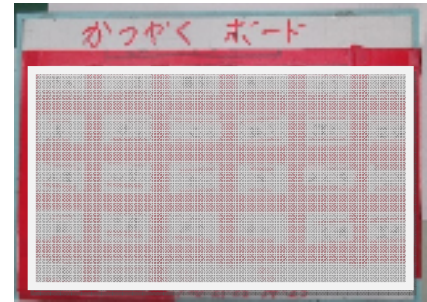
平成30年11月30日(金) 授業者 川俣 裕樹

- 1 単元名 「分数をもっとくわしく調べよう」(分数のたし算とひき算)
- 2 人権教育の視点から

○ 本学級では、よりよい学習集団を形成し「全員が参加できる授業づくり」をすることが、児童が体感的に人権の尊重について学べる絶好の機会である、と捉えて以下の点に留意して授業を展開した。

① 「かつやくボード」の活用

右のようなものに「かつやくボード」と名付け、授業で活用した。授業の中で、発言をした児童のマグネットを貼り、活躍したことを可視化したものである。このボードの活用により、児童が全員で授業に参加しようという気持ちを持たせるためのよい手立てとなった。



② 間違ふことへの抵抗を減らす学級作り

児童が誤答をした場合に、それを教師と学級とで丁寧に正答に導くことができれば、間違えた児童の気持ちに寄り添えるのと同時に「間違っても怖くない」という、授業の積極的参加に対する安心感を与えることにもつながった。児童の誤答について指導者が取り上げて全員で考えたり、誤答を示したりすることによって「全員が参加できる授業」をつくりあげていきたい。

③ 5Kを重視した授業


5Kの中の「活躍する」については毎時間意識してきた。他の4項目についても、意識することで「みんなで学んでいる」という気持ちを高めることが可能な要素である。本時においてもできる限りこの活動を取り入れていきたい。





3 本時の実際

(1) 本時のねらい

- ・通分のしかたについて理解し、異分母の分数を通分することができる。(技能)

(2) 学習過程

| 学 習 活 動・内 容 | 時間 | ☆人権との関連から |
|--|----|--|
| 1 既習事項を振り返る。 2 問題の提示とめあてをつくる。 ・異分母の分数の大小を提示 ④ $\frac{3}{4}$ と $\frac{4}{5}$ ではどちらが大きいかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">分母をそろえるにはどうすればいいかな。</div> | 7 | ☆人権との関連から ☆「かつやくボード」を利用し、発言やつぶやきを称賛し全員が積極的に授業に参加できた。(活躍)(声)  ☆学習のめあてを子どもたちの言葉により作成し、課題を明確に持たせた。(決定) |

| | | |
|---|-----------|---|
| <p>3 自力解決する。</p> <p>4 自分の考えをペアや全体で共有する。</p> <p>(1) ペアでの説明活動行う。</p> <p>(2) 全体で共有する。</p>   | <p>28</p> | <p>☆ペアでの説明活動を取り入れることで自分の考えを整理して伝えたり、考えに自信を持ったりすることができた。(共感・共有)(声)</p>   <p>☆友だちの考えにうなずいたり、友だちの考えを代わりに説明したりすることによって、共感することができた。(共感・共有)</p> <p>☆問題解決の過程を黒板に書く児童の様子。この後、書いた本人が発表するのではなく「〇〇さんはどんな考え方をしたんだろう。」と問いかけ、違う子どもに説明していた。その結果、活躍する人数を増えたり、友だちの考えについてより共感したりすることができた。(活躍 共感・共有)</p> <p>☆子ども達から出た問題解決の過程を書き並べ、それぞれの良さを比較できた。(比べる)</p> |
| <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>(1) まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分母をそろえるには、分母の公倍数を見つけて分母にする。 大きさを変えずに同じ分数に直すことを通分という。</p> </div> <p>(2) 適用問題を解く。</p> | <p>10</p> | <p>☆子ども達の言葉によりまとめを作成した。(決定)</p> <p>☆適応問題を解き、どの解き方をしていくか決定できた。また、問題解決の過程を黒板に書く子どもと発表する子どもとを別にして多くの子どもが活躍できた。(活躍)(決定)</p> |

4 本時における手立ての有効性と課題

- かつやくボードの活用により、自分が発表・発言しようという意欲を高めるだけでなく、友だちの意見を聞いたり、活躍させたりする気持ちが子ども達の中に芽生えてきた。
- ペアでの話し合い自体が一人一人の活躍の場になっていた。さらに、この時間を確保したため、子ども達が発表することへの自信をつけたり、教師が子ども達の考えを見取る時間に使えたりすることができた。
- 発言や発表等がなかなかできない子どもに対する活躍のさせ方についての手立てを引き続き研究していきたい。



| | |
|-----------|--|
| 実践事例 2 | 互いに信頼し、互いに高め合いながら、友情を深めようとする態度を育て、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる授業 |
| 第 6 学年 道徳 | |

平成 3 0 年 1 1 月 3 0 日 (金) 授業者 武藤 貴美子

- 1 主題名 真の友情 内容項目 B (1 0) 友情・信頼
 教材名 「ロレンゾの友達」 (「みんなの道徳 6 年」学研)

2 人権教育との関わり

【視点 1】人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

本主題では、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てていく。本教材の登場人物の心の動きと照らし合わせながら、自他の人権を尊重し、自分の心や他人に対して誠実に行動することの大切さに気づかせたい。

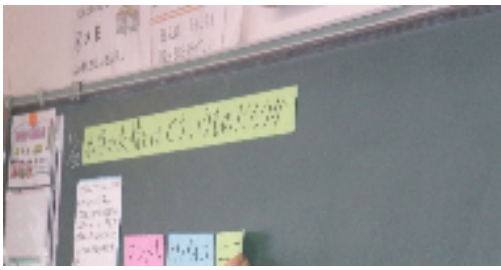
【視点 2】自他を大切にする学習活動の工夫




全体で話し合う場面を設定したり、ネームプレートを使って自分の考えを決定させたりすることで、自分の立場を表現したり、他者の意見や考えに共感したりして学びを深められるようにする。

【視点 3】自他を大切にする振り返り活動の設定

終末において自分たちの生活場面を振り返らせることによって、自分や他者の活動を振り返り、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。

3 本時の実際

| | 主な学習活動 | 時間 | 活動の様子 |
|--------|---|-------------|---|
| 導 入 | 1 本時のねらいをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本当の友情とは、どういうものだろう。 </div> | 3 |  本時の課題を提示することで、何について考える時間なのかを掴むことができた。 |
| 展 開 | 2 「ロレンゾの友達」を読んで話し合う。 (1) ロレンゾを待っているときの 3 人の考えについて整理しながら話し合う (2) アンドレ、サバイユ、ニコライの中で、誰の考えに賛成か、自分の立場を明確にして、グループで話し合う。 [アンドレに賛成] ・警察に知らせるのはかわいそう。 ・友達だから助けたい。 [サバイユに賛成] ・無理に警察には連れていけない。 ・友達の意思を尊重したい。 | 7 10 | |

| | | | |
|----|--|-----------------------|---|
| 終末 | <p>[ニコライに賛成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だめなものはだめと気付かせたい。 ・逃げ続けたらかえって苦しませる。 <p>(3) グループでの話し合いをもとに、3人の立場やその理由から、本当の友情について全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の行為は違っても、それぞれロレンゾのことを真剣に思っている。 ・本当の友情とは、先のことを考え、悪いことは悪いということだ。 <p>3 授業で考えたことや自分の経験を振り返って「本当の友情」について考えたことをノートに書き、友達と伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当の友情とは、自分にとって楽しいことをしてくれるだけでなく、お互いのことを真剣に考え合えること。 ・友達だからこそ、いけないことはいけないと言うことが本当の友情。 <p>4 教師の説話を聞き、本時の感想をノートに書く。</p> | 7 1 3 5 |  <p>グループ学習の様子</p> <p>ネームカードを黒板に貼って自分の立場を明確にした上で、グループでそれぞれの考えを伝え合い、本当の友情について話し合わせた。</p>  <p>事前アンケートの結果から、児童がこれまで本当の友情をどう捉えていたか振り返りながら考えることができるようにした。</p>  <p>本当の友達について自分の考えをノートにまとめた。</p> |
|----|--|-----------------------|---|

4 授業の考察 (成果○ 課題●)

- 罪を犯したかもしれない友達に対して本当の友達ならどうするかと問題場面を焦点化したことで、教材の読み取りにならず、しっかりと考えることができた。
- 子どもたちからのアンケートをもとにして話し合いを行ったことで、より自分たちの生活に添った話し合いになった。
- 児童同士で、違う考えに質問をしたり同じ考えを説明させたりすると、より互いの考えに理解が深まったように思う。

(3) 人権が尊重される環境づくり

「安心して過ごせる園・学校」を目指した実践

① 児童（委員会活動）によるあいさつ運動



児童会の生活委員会を中心に「あいさつ運動」が毎朝行われた。

本校の校長より、児童に向けて『『あいうえお』を大切にしましょう』とお話をいただき、「あ」のあいさつ運動に取り組んだ。登校してくる友達に元気にあいさつをすることで、一人一人の元気な笑顔が多く見られた。子ども同士だけでなく、地域の方にもあいさつする姿が多く見られた。

② 教育委員会・見守り隊による安全な登下校

朝や帰りの登下校時に、見守り隊や教育委員会の方にも見守りをしていただき、安全に登下校することができた。



その際、あいさつはもちろん、左側の写真のように困ったことを見守り隊の方に相談する児童もおり、児童と見守り隊の方々との信頼関係ができ



ていることが感じられた。毎年、4月に各地区の見守り隊の方との顔合わせ会を全校集会で行っている。

③ 5Kを意識した日々の授業の実践



授業の中でも児童が自他を認め、尊重していくために「5K」を意識した授業を行った。「5K」とは、秋田県の教育専門監の先生の実践に習い、

K1（活躍させる）、K2（共感する）、K3（比べる）

K4（決定する）K5（声に出す）

を意識して授業を行うものである。本校では、どの教科の時間においてもこの「5K」を意識して授業を行ってきた。

「家庭・地域が一体」になるための実践



④ 地域ボランティアや保護者との連携・協力

運動会において地域の方の参加をお願いしている。写真は
その練習の様子だが、「坂下音頭」の踊り方の指導を地域のス
ポーツ民謡の方をお願いしたところ、快く引き受けていただ
き、大変丁寧に分かりやすく子どもたちに教えていただいた。

また、年4回のPTAによる親子奉仕作業、そして昨年5
年に一度の「南小まつり」が行われ、たくさんのPTAの方に
ご協力をいただき、大変盛り上がった「祭り」となった。



⑤ 子どもたちが地域を知るための取り組み

子どもたちが地域を知る活動も行われ、
4年生では社会科「郷土の発展に尽くす」
の中で、「栗村弾正盛俊」が1331年の鎌
倉幕府滅亡直前から、この坂下町に堰を築い
たことを学習した。

現在もこの堰が使用され、水田に水を引
くために活用されていることを知って、児
童はとても驚くとともに、郷土への誇り
を感じたようだった。



⑥ 地域の方や高校生との交流



地域の方や近隣の高校とも
交流して学習活動を行った。5
年生は年間を通して稲作体験
を行い「船窪有志会」の方々
にお世話になりながら、「種まき」
から「わらない」「餅つき」体
験も行った。そして、お世話にな
った方々を招待して新米を使
った「おにぎりパーティー」を行
った。

また、会津農林高校にお世話になり会津の郷土野菜である「小菊カボチャ」を作る体験も行った。会津の伝統野菜についての話も聞きながら、できあがった小菊カボチャをカレーの給食にして一緒にいただいた。



「自分も他の人も大切にできる人権教育」の実践

⑦ 毎時間の授業中で自分も他の人も大切にできる教育



日々の学習の中で、それぞれの教室で5Kを意識した授業が行われてきた。その5Kの中で「共感する」「比べる」をペアやグループ学習、全体の話合いの場面で、お互いの意見や考えを生かし大切にすることを実践してきた。

⑧ 幼小連携について①（5年生と一緒にプールに入ったよ）



各学年とも幼小連携を行った。左の写真は5年生が幼稚園生の年長児と一緒にプールに入った場面である。5年生の児童の感想を見ると「幼稚園生が喜んでくれてうれしかった」や「自分も幼稚園の時はプールが怖かったけど、今は大丈夫になったんだなと思った」等、人と関わることによって喜びを感じたり、自分の成長を感じたりすることができたようだ。

⑨ 幼小連携について②（1年生との「おもちゃまつり」）

右の写真は幼稚園年中児を1年生が小学校に招き、「秋のおもちゃまつり」を行った場面である。秋の木の葉や実を使って、楽しめるおもちゃを1年生が作り、年中児と楽しく遊んだ後で、1年生は次のような感想を書いていた。

「私は、コマとヤジロベイコーナーでした。最初は、説明するのが難しかったけど、がんばって説明しました。私が見ると、年中さんでコマを回すのが上手な子がいました。だから『じょうずだね』と声をかけてあげました。とても楽しかったです。」



異年齢との関わりから他人を思いやる優しい気持ちが育っていると感じられる場面であった。

「互いのよさを認め、尊重し合う」実践

⑩ 人権についての知識や理解を深めるための環境整備（人権コーナーの設置）



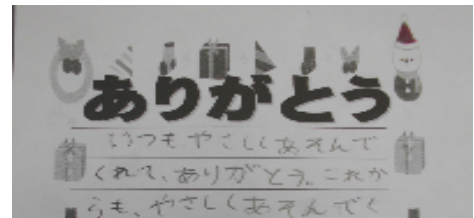
子どもたちに人権について知ってもらおうと、校内に「人権コーナー」を設置した。人権について分かりやすく漫画で紹介されている法務省のリーフレットを掲示したり、人権についての図書コーナーを3階の中央廊下に設置したりした。

図書室に行く途中ということで、特別に宣伝もなかったが、子どもたちは興味関心を持って足を止め、漫画を見たり、本を読んできたりしていた。

⑪ 「ありがとう郵便」活動

校内に「ありがとう郵便ポスト」を設置した。これは、「ありがとう」の気持ちを手紙に書いて友達に届けるものであり、大変活発に行われた。

ポストにいった「ありがとう郵便」は昼休みに6年生の代表委員によって各クラスに配達されたり、毎日3～5通程度、給食時の放送で紹介されたりした。この「ありがとう郵便」が紹介される時間は、校内に温かい気持ちがあふれるよい時間となった。



⑫ 図書委員会による幼稚園への読み聞かせ活動



図書委員会が幼稚園を訪問し、読み聞かせを行った。きちんと聞いてくれている幼稚園生に「自分たちもしっかりと読んであげないと」と緊張したとあとで6年生が話していたのが印象的であった。

(4) 成果と課題

① 成果

- 同学年の友達だけでなく、地域の人や保護者、幼稚園や高校などとの異校種間の連携や交流を通して、互いのよさや自分のよさ（自分の成長）に気づくことができた。
- 様々な交流や活動を通して、自他を大切にする人権意識が高まってきた。

② 課題

- 人権の知識・理解を高める面が弱い。